

8 番 清 水

おはようございます。

通告順位7番、議席番号8番、清水明でございます。

冒頭、もう御承知のように、今ウクライナでは大変なことが起こっております。一日も早く平和が来ますようにお祈りをいたしております。

では質問に移ります。

件名、「町の人口増加対策を問う」。

町の努力により流入人口は増加しているのにもかかわらず、人口減少に歯止めがかからない。東京都でも初めて区の流出人口が流入人口を上回ったというニュースが報じられたが、地方ではさらに深刻の度合いを深めつつあります。今までも幾たびとなく同僚議員が質問していますが、改めて町の人口増加策の取組について質問をする。

1、過日行われた県立山北高校が3年間取り組んできた「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）」（文部科学省指定）の研究成果発表会では、多くの町に対する各分野にわたっての提言がされ、山北町の魅力を高校生の目で発見し、山北町のすばらしさを地域住民と共有し、住みよい町であることを発信することにより町の活性化を図り、人口増につなげるという熱意を感じた。町はそれらの提言をどのように評価し、対応しようとしているのか。

2、人口増加を考える上で、必要なことはまず「住」の問題が挙げられるが、それについては現在「東山北1000計画」が進行中である。次に考えるべきは「職」である。理想をいえば、工場なり事業所を町内に誘致できれば、それにこしたことはないが難しいと考える。しかし、子育て世代を呼び込むためには、収入確保の場は必要条件である。コロナ禍がいつまで続くかわからないが、リモートワークはさらに定着すると考えれば、当町が首都圏にあることは有利点であり大きな可能性となる。

また、今後高齢社会が進むにつれて脱農業が進むことは間違いない。それら農地を活用し、脱都会で農業志向の流入希望者とのマッチングも人口増加策として、町はどう考えるか。

以上であります。

議

長

答弁願います。

町長。

町 長 それでは、清水明議員から「町の人口増加対策を問う」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「過日行われた県立山北高校が3年間取り組んできた『地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）』（文部科学省指定）の研究成果発表会では、多くの町に対する各分野にわたっての提言がされ、山北町の魅力を高校生目で発見し、山北町のすばらしさを地域住民と共有し、住みよい町であることを発信することにより町の活性化を図り、人口増につなげるという熱意を感じた。町はそれらの提言をどのように評価し、対応しようとしているのか」についてであります。1月14日の町生涯学習センターでの研究成果発表会は、山北高校、町、町教育委員会の3者の共催で実施いたしました。

この発表会では、代表の3グループから「山北町の少子高齢化問題について」などの提言をいただき、参加者105名と発表の内容について共有することができました。また、大正大学地域創生学部浦崎太郎教授の講演では、高校生の学びの成果を地域に生かす意味と、今後の町の在り方についての足がかりとなる御示唆をいただきました。

こうした提言についての評価と対応ですが、参加された方の御意見、御感想には、「高校生の視点で感じたことやアイデアが盛りだくさんであった。何よりプレゼン力がすばらしかったです」や「第1回を皮切りに、第2回、第3回とぜひ続けてください。できたら、他のチームの発表も機会を見つけて聞いてみたいです」などという多くの肯定的な御意見、御感想をいただきました。

今後も町と県教育委員会との協定を継続しながら山北高校との連携を図っていくとともに、コンソーシアムを形成している町行政が中核となり、自治会をはじめとする関係機関、団体等の施策に生かしてまいりたいと考えております。

高校生がこうした調べ学習やフィールドワークによる探求の時間、発表の場を通して、問題解決能力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを高め、社会で求められている資質・能力を身につけることにより、

将来を担う地域人材の育成が山北高校の大きな目的となっております。

参加した方のアンケートにも「山北町で近い将来、力を発揮していただきたいと心から思いました」という御意見があり、豊かな人間力を身につけた若い人材が、将来、町に戻り、力を発揮することが人口問題の解決につながるものと期待しております。

次に、2点目の御質問の「子育て世代を呼び込むためには収入確保の場は必要条件である。コロナ禍がいつまで続くか分からないが、リモートワークはさらに定着すると考えれば、当町が首都圏にあることは有利点であり大きな可能性となる。また、今後高齢社会が進むにつれて脱農業が進むことは間違いない。それら農地を活用し脱都会で農業志向の流入希望者とのマッチングも人口増加策として、町はどう考えるか」についてであります。リモートワークによる人口増加策といたしましては、山北町が都心から電車で1時間半圏内に位置し、自然豊かな環境であることから、移住相談に当たっては、都心に通勤可能な町であることも含め、リモートワークにおいてもよい立地であることを前面に押し出し、紹介しております。

令和3年度では、お試し住宅にインターネット環境を整備し、利用された方が、実際にリモートワークの体験をされ、非常に好評を得ております。空き家活用助成金につきましても、リモートワークを行うためにインターネット環境の整備費用について、助成の対象とするよう、事業の拡充を図っております。

また現在、整備を進めております、みずかみテラスにつきましては、リモートワークにも活用できるサービスルームを設ける計画となっておりますので、それらもPRしながら、首都圏にお住まいの方々の移住促進を図っていきたいと考えております。

農地を活用した人口増加策として、現在、移住希望者の相談窓口となる「やまきた定住相談センター」を開設し、相談対応を行っておりますが、コロナ禍の影響もあり、都市部から地方への移住志向が高まっている状況にあることから、移住相談件数は増加傾向にあります。

中でも、家庭菜園や兼業で農業をやりたいなど、小規模な農地についての問合せが増えてきている状況となっており、空き家バンクの情報と併せ、関

係課から提供された情報を基に遊休農地の取得や町内の貸農園、町の助成制度等について説明するなど、希望者に対しては庁内で連携し、しっかりとした対応を取るよう指示しております。

また、町では、神奈川県が主催する農業や林業などにテーマを絞った移住セミナーや、東京で開催される全国規模の移住フェアにも参加しており、町内の農林業に関する取組や助成制度について説明も行い、今年度につきましては、移住セミナーと移住フェアに参加された相談者の中で、農業に興味を持たれている方が本町に移住されております。

さらに、お試し住宅では、今年度から利用者の体験事業の一つとして、町内で活動している農業団体と連携し、農業体験ができるプログラムを追加し、農作業の知識の習得や収穫体験を行うなど、地元の方との交流の場として、農地を活用した取組も行っております。

町では、こうした取組も含め、今後も引き続き農業に興味がある方などの移住促進が図れるよう役場内の関係部署や農業団体などと連携しながら、定住対策事業を継続して進めていきたいと考えております。

議 長
8 番 清 水

8 番、清水明議員。

まず最初の質問であります、過日の山北高校の発表についての質問をいたしました。

私たち議会では、働き方、議会の改革を目指すということで、三つの小委員会をつくって活動しております。その中に次世代育成小委員会があります。これは大学、高校、それから小・中等と連携を図るということで進めておりますが。コロナ禍で残念ながら大学については、今のところちょっと進んでおりませんが、山北高校とは何回か会合を開いたり、それから校内での小発表会等に参加をしまいいりました。

そういう中で生徒たちの活動を見ながら、これがすごく人口増につながるということではありませんが、町に興味関心を持ってもらおうということでは何かの手助けができないかなということやってまいりました。

この前の発表ですが、ここで一番聞きたいというか、今後、ここでも肯定的な言葉がありますが、御承知のように、ここで3年の指定の研究が終わります。そして新たな段階に山北高校の研究は入ると思いますが、そのとこ

ろで今までは助成金等が出ていましたが、今後はその助成金がここで終わりに
になってしまうというふうに聞いております。その中でお話を聞いてますと、
例えば町の中を探検するというふうなことをやっておりますが、山北町は何
しろ広いということで、特に三保・清水等へ行くのには、かなりの交通費が
かかる、その辺が大変だということでお話を聞いております。そういうこと
を含めて、交通費等含めて、新たな助成金が予算に盛り込まれているようですが、
今後その連携を深めると同時にそういった経済的な面での支援というふうな
ことはお考えでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 今、議員が言われたとおり、文科省の指定で国からそれに関するような活
動費、助成金が出ておりました。３年間で文科省の指定が切れますので、そ
の関係で、これまでも町と県とコーディネーター等の負担金はやっておりま
した。

それで、今言われたとおり、町内のところ、フィールドワークをしなきゃ
いけないというようなこと、あるいはコーディネーターも、さらにまた継続
してやっていかなきゃいけない、さらには大学の先生等のいろんな話を聞か
なきゃいけない。そういった中で、そういった探求の活動時間がしっかりと
充実させなきゃいけない。そういう姿勢に立って、県と町が協定を結んでお
りますので、山北高等学校のそういった探求活動の支援をするという中で、
当初予算のほうに、財政的に支援という形で盛り込んで、今回提案させてい
ただいたということでございます。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 その予算ですが、細かいことはまた後ほどのところ出てくると思うんです
が、例えばバスを１台チャーターすると、１日べったりの場合ですと、10年
ほど前は13万円くらいかかってましたが、行って帰っての往復ということで
考えても、やはりかなりの金額がかかると。そしてバスが１台ではまず足ら
ない。それから何回か出かけるようになるとさらにかかる。そういうところ
で、かなりの財政支援が必要かと思いますが、予定する予算の中でそれらが
十分だとお考えでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長

町が、予算が十分かどうかというのが、ちょっとそのところはどうなのかというところがあります。山北高等学校がどういう探究活動をするのか、それぞれ1年、2年、3年、指導計画の中でどういったフィールドワークをするのか、それにかかってきます。そういった中、山北高等学校の校長先生といろいろ協議しまして、どの程度の予算だったら活動できるのかと、ただ、それが町と、先ほど言いましたように県もそれなりの財政負担をしていただくということで聞いております。

ただし、それに子どもたちの活動ですから、教育活動の中に必要な支援、ものということの中で、いわゆる中学校、小学校で同じように、どこかに出かけるときに、例えば校外活動で遠足だとかそういったときには保護者の負担の中でやっております。ですから、山北高等学校も当然そういったフィールドワークをする場合には必要な経費というのは生徒の負担という形の中で、保護者が負担するようなそういう形になります。そういった中でそれだけでなく、町としてもそういった財政的支援も必要だろうということで、山北高等学校といろいろ財政的な面で話をしまして、そして今回、当初予算に盛り込ませていただいたということでございます。

ですから、全てを町でやるということではなくて、それぞれの担当の中でやっぱり必要になったところをしっかりと探究活動できるような、そういった支援をしていくことが必要じゃないかなというふうに思っております。

議 長

清水明議員。

8 番 清 水

確かに、当然ながら自己負担等も必要だと思いますが、教育活動、それも山北町を知って、そしてその魅力を発信をするのだということについては、ぜひとも特段の御配慮をいただきたいなと思うんです。今回、予算を計上してもらったということについては、私は非常に評価をしたいなというふうに思っておりますが、先ほども言いましたが、多ければ多いほどいいということで。また、ぜひ学校側とも相談をしながら増額できるならば、その線で進めていただきたいなと思います。これは、子どもたちのためだけではなくて、私たち、山北の住民が様々なところで恩恵を受けるようになると思いますので、そのところはお願いをしたいというふうに思っております。

高校生の活動ですが、発表の中で町に若い人の姿が少ないというものがあ

りました。昔の青春物語でいきますと、高校生が学校終わって駅まで帰ります。言い方が変ですね。駅まで行って家に帰りますが、その駅に行くまでにお店があって、そこでおしゃべりをしながら何か飲んで、食べて帰っていくというふうなものがありました。かつて山北高等学校は、今のパークゴルフ場のところにありました。山北駅を降りて徒歩でたくさんの高校生が通っていました。私、まだ若い頃です。そんなに前じゃありません、ちょっと前です。そういう中で町の中を高校生が朝夕歩いてました。ただ、今は、東山北の駅で降りて、すぐに学校に行って、そして、また帰りは東山北からそれぞれの家に帰っていく、つまり、町に歩いていく。これは町というのは、駅周辺をとということです。そういった姿が見られないというふうなことを高校生自身もそういうふうに言っておりました。私も感じております。やっぱりいるだけでも違う、ただ、それは高校の立地から言って、致し方のないところではありますが、そういう点では、先ほどのフィールドワーク、町の中を高校生たちが探索をして歩く、高校生たちの姿を見かける、それから地域の人たちとそんな中で話をするようなことがあれば、さらに活性化が図れるのではないかと思います。そういう点では、確かに、町だけの話ではありませんが、ぜひとも国の助成がなくなった分、県のほうに、当然ながら増額等をお願いしていると思いますが、その辺の増額について見通し、県の関係ではどうでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 県のほうについては、私のほうには情報が全く入って来てません。まだ、ちょっと前に県のほうで確定したということで、その後、山北高校にどのくらいの助成が入ったということの金額的な面は入って来てませんけども、町もしますので、ぜひ県のほうも、それに応分の財政的な支援も必要だと思いますよというような、そういう話は、山高のほうにはしてございますけども、具体的な数字については、私のほうではまだ承知しておりません。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 回答の中に今後も町と県教育委員会との協定を継続しながら、山北高校との連携を図っていくとともに、コンソーシアムを形成している町行政が中核となり、自治会をはじめとする関係機関、団体等の施策に生かしてまいりた

いと考えておりますということではありますが、具体的な対応については、現在あるでしょうか。

議長 教育長 教育長。

教育長 今回、町で3者による発表会を1月14日に開催させていただきました。それまでは12月の17日、18日、17日が山北高校の校舎内で発表ということで、24回以上にわたって、生徒それぞれのグループが全て発表するという、対応するというで聞いております。

その後、18日は代表の方が松田の町民センターで、保護者や生徒、それから、あと関係者等を招いての発表会を行うということで、これが文科省指定の山北高等学校の発表会ということで、当初はその予定だったんです。しかし、町民の方が参加する機会が非常に少なかったと、参加者数も制限された中での開場ですので、そういった中では、ぜひ山北町の方々にも提言というか、発表を、その場が必要じゃないかということで、山高のほうに町としてもいろいろ話をしまして、そして3者での開催ということになったわけでございます。

そういった中で、発表を聞いた中で、先ほど町長の答弁にもありましたように、多くの方の肯定的な意見ということで、今までに高校生が発表するのを聞く機会というのは、ほとんどなかったというふうに思っています。そういった中で、肯定的な意見というのが105名の参加者のうちの73名からアンケートのほうを書いていただきました。その73名のうちの「とてもよかった・少しよかった」という割合が97%、非常に高い肯定的な意見でございました。「とてもよかった」というのも73人のうちの55人がとてもよかったということで、これは、ぜひ2回目、3回目を継続してやっていくべきだというふうに考えてございます。

そういった中で、どうやってその提言をいろんな面で生かしていくかと、これがやはりこれからの課題だろうというふうに思っています。ただ聞くだけで終わるんじゃなくて、その後、具体的にどうやって施策に生かしていくかということの中で、これについては、これまでも例えば丹沢湖マラソンのTシャツの選定委員、これは町の中だけで決めるんじゃなくて、役場庁舎内だけで決めるんじゃなくて、スポーツ推進委員の方々とか、そういったいろん

な関係団体の方も何名か入っていただいていたたり、数年前からは山高の生徒にもこの選定の委員に入っていただいております。さらには青少年健全育成大会、こちらのほうに、令和3年度から高校生による意見発表ということで開催させていただきました。これも来年も予定しております。

そういった中でいろんな参画という意味で、ただ提言をして終わりじゃなくて、高校生にも参画していただく、そういう機会をもっていきたいなというふうに考えてございますし、そして、いろんな提言の中で、どうやってそれを政策に生かせるかということで、これから総合計画等も策定するようになりますので、そういった提言を受けて、この点は必要じゃないかとか、あるいは高校生の目線に立った、視点を盛り込んだ施策というのが必要じゃないかなというふうに思ってます。具体的にどの場でどういうふうにということではございませんけど、常にそういう視点を大事にしながら進めていくことが大事じゃないかなというふうに思っています。

今度、来年の予定の中では健康スポーツ大会が秋祭りというような形で開催したいというふうに考えてございます。そういったスポーツの秋祭りの中で、高校生の視点を生かして、取り入れた種目等を考えていければいいのかなというふうに思ってますので、そういった高校生の提言は人口増だけでなく幅広く、いろんな提言が出されてますので、そういうところを各課の中で、あるいはコンソーシアムを形成しております観光協会、あるいは商工会、あるいはいろんな団体、そういったところで施策の中で、あるいは具体的な取組の中で生かしていければいいかなというふうに考えてございます。

議 長 副町長。

副 町 長 ただいま教育長が言いました提言の関係なんですが、早速、課長会、幹部職員みんな集めた中で課長会を開きまして、まず行政として取り組むこと、それから民間として取り組まなきゃいけないんだということをその辺をしっかりと精査した中で、町はどのような形で、全て町がやるというところとちょっと荷が重くなり過ぎる面もあるんで、仕掛けとか民間の業者、事業者がやってくれる人に対しての仕掛けとか支援というものを町がやらなきゃいけない。それから、もちろん行政が取り組まなきゃいけない、その辺をしっかりと区分して考えた中で総合計画につなげるようにというように形で考えています。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 高校生たちの提言について、先ほど教育長も言われましたけれども、ただ受けるだけではなく、返していく、つまり山高生の全員が進んでという参加体制ではないにしても、やはり自分たちがやったことについて、何らかの評価をされる、答えが返ってくるということについては、今後のやる気にもつながると思うんです。

例えばあの発表の中で、すごく印象に残ったのは、一つはツリーハウスです。山北は毎回言われてますが、9割が山であると。つまり、木、森林は不足はないと。そういう中で森の活用については私も同僚議員も何回か言及していますが、やはり木材だけではなくて森の活用ということも含めれば、ツリーハウス、なかなか具体的にすぐにはいかないにしても、やはり考えるべき視点ではないかなと。

それからもう一つ、三保の夏の予防、駐車問題ですね。あれについては、まず、ある一定の金額を徴収をして、きちんとごみ等を持ち帰ってくれたらば、半額ぐらいを返す、そうすれば違反も減ってくるだろうし、それから自然を守るということについての心をつくるのに役立つだろうという発表がありました。これについては様々な問題がありまして、じゃあ誰がお金を集めるのとか、いろいろあると思いますが、私は視点としては、非常に優れたものではないかなというふうに思っております。

これはできる、これはちょっとこういうことで駄目だよというふうなことを、やはり私は3者で行った発表会であるということ、そして山北高校を支援してるということから考えても、何らかの返答を具体的に出すべきではないのか、九十幾つあった発表を全部とは無理にしても、その中でこれはできる、これはこういうことで難しいよというふうなことで、それが私たちの社会参画につながってくるのではないかなというふうに思っておりますが、そういった、ここで質問した評価、それに対する対応についてはお考えはないでしょうか。

議 長 町長。

町 長 当然、例えばツリーハウス、高校生から提言を受ける前に、もう既に何か所か当たっております。残念ながら、なかなかその場所がないと。提言を受

けたからではないんですけど、事業者のほうからやりたいということで数か所オファーをかけて、そして探しました。しかし、なかなかゼロではないんですけど、相手が希望する面積が得られないと。事業者ですから、一つ建てるという、そういうケースじゃありませんで、相当たくさんやりたいということですから、そういった場所が実際に今のところちょっと見つかっていないと。

ですから高校生の提言についてできるとかできないとか、完全に法律があつて、それができないということだったらできないというふうに言いますけど、それ以外のことは別にできるとかできないではなくて、やってみるということを考えております。

ごみ問題にしても、もう何年も前からごみ袋の有料化をして、そういうようなキャンプ場とかバーベキューやる人にできないかということで、ただ、どうやって買っていただくんだと。例えばキャンプ場であれば、来た人に説明はできるでしょうけど、一般に車でさっと来た人にどういふようなことができるか、駐車料金か何かで上乗せして買っていただくとか、そういうようなことでもしないとできないんじゃないかとか、いろいろなことで研究をしておりますんで、高校生の提言は提言でいただいて、尊重しておりますけど、町では、それ以前からそういった各問題については検討しておりますし、また検討してない問題も高校生から提言を受けてるということで、特に山北町で今回の提言で高校生に期待するのは我々が不得意なSNSとか、そういうようなインターネットの発信、それは、やはり我々はどうしても固定観念で発信してしまいますので、やはり若い人たちにどういふふうに山北の魅力を知っていただくか、そういったようなことが高校生ならではの視点で大切だというふうに私は認識しております。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 発表会の後半で、大正大学の浦崎教授がお話をされました。その中で高校生、残念ながら今、山北中出身の山高生は少なくなっています。ほかの市町から来てる生徒が多い。卒業したらば、それぞれのところに戻っていく。山北との関係は弱くなっている。

でも、この高校3年間で様々な活動をした、そして自分はこんなことがで

きたんだ、町の人とこういうふうなこと、つながりもあった。それがいつか何かの形でつながってくる可能性がある、だから彼らの活動に対して、何らか一定のものを返してやる、それが必要ではないかなと思うんです。町長が今言われたように、確かに、発表の全部が有効とは思えませんが、ただ、何らか発表について、こういうことについては、確かに、今、もう既に町でも取り組んでいること、たくさんありました。でも、そのことについても、こういうふうなことで活動していますというふうなことも返していきながら、いつかサケが帰ってくるようなことが可能性としてはあるんだということが、浦崎教授の話にありました。

そういうことも含めて、何らか、例えば生徒の代表に表彰状ではありませんが、御苦労さんというようなことでのことを考えるというようなことはないでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

山北高等学校が取り組んでいる探究活動の件でございますけども、これについては、最終的な目標が提言ではないんです。やはり地域の人材育成、これが、究極的な最終的な目標でございます。その人材育成を図るに当たって、山北町、山北高等学校の中心となって、いろんな関係者と一体となって推進していく、そして、いわゆる探究活動のカリキュラムをしっかりとつくっていくんだと、そして、その中でフィールドワークをし、最終的に提言をして、そういう展開をしてくんだと。そして、それが行く行くは、さっき大学の先生の話もありましたけども、地域人材につながるんだということがございます。

ですから、提言をして、それを全部施策がいいのか悪いのかとか、その提言がどうなのかということを町が評価すべきものかどうかと、そのところも一つ大きな課題だろうというふうに思っています。

やはり、子どもたちが学んだことでのものがございますので、そこについて、一つの視点としては町としてありますけども、やはり山北高等学校のほうとして、どうなのかということでそのところをしっかりとやっていくことが一番大事じゃないかなというふうに思っておりますので、先ほど町長が言いましたように、一つ一つについて、それについてコメントというか、そ

このところの話をするというのは、それはちょっとどうなのかというふうに思ってますので、ですから、その辺の検証というか、そのところは、またこれから山北高等学校といろいろ話合いを持ちながら、どういう形で進めていけばいいのか、そのところは考えていきたいというふうに考えてございますけども、今こうやってすぐに提言があったものについて、どうのこうのという、そういったことは、まだ本来の目的であるところとはちょっと違うんじゃないかなというふうに思っております。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 このことについては、時間の関係もありますので、今後2回、3回目をやってくれないかというふうな声があったということです。それについては考えていくということでよろしいでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 その件については、もう当初から意見の中で、アンケートの中で2回目、3回目もやってほしいという意見がありました。これについてはもう町と山北高等学校と、それから教育委員会も3者の中で、今後も継続してやっていきましょうという中で、ただ、そのやり方については、またいろいろ検討していかなきゃいけないというふうに思いますけども、これについては継続していくという確認はされております。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 回答の中の山北高校との連携を図っていくとともに、コンソーシアムを形成している町業者が中核となりということで、コンソーシアムについて、なかなかこれが町の人には見えにくいと。聞くところによると、ある会合では、それぞれの団体の代表が選ばれてる中で、一人を除いて、ほかが全部代理が来たというふうなことがあったと聞いております。やはりコンソーシアムが中核となるということで、この活動について、もう少し町の人に分かりやすくなるようなことはできないでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 コロナ禍の関係でなかなか山北高等学校の活動が十分できなかったということで、そういう中でも、コロナ禍であってもこれだけ山北高等学校がフィールドワークをし、探究をし、そして提言まで結びついたということは、

全国的にもこの地域魅力型の指定を受けてるのが全部で20あるそうですが、その中でも、大学の先生の話によりますと、非常に山北高校が積極的にコロナ禍であっても、非常に取り組んでるという評価をいただいております。そういった中でコンソーシアムを形成している方々となかなか話し合う機会だとか、そういった会なかなかもてなかったという中で、山北高等学校としましても、しっかりその探求をし、そして課題を見つけ、それをどうやって解決していけばいいかという、そのところを達成することだけでも、本当に大変じゃなかったかなというふうに思っています。

ですから、今後の中で、そういったコンソーシアムを形成している方々と、さらに密にいろんな面で活動し、会合して、取り組んでいく必要があるとも思いますし、コーディネーター役の方もおられますけども、その方々も、まだまだコロナの関係で、なかなか学校に足を踏み入れることもなかなかできなかったということで、県立学校ですので、分散登校が始まったり、いろんな面で制限はいろいろありました。そういう中で、課題としては幾つかありますので、そういった面でこれからさらにそういったものを推進していくという考えであるということを山北高等学校からも聞いてございますので、そういった面で町としましてもそういった面での支援をしっかりしていきたいというふうに考えてございます。

議長 清水明議員。

8 番 清水 2つ目の質問に移ります。

子育て世代を呼び込むためには、収入確保の場は必要条件である。つまり今、水上のほうにもつくりました。やはり、まずは住がなければいけません。ただ、住むだけではなくて、当然ながら来るためには生活を成り立たせなくちゃいけない、これはもう釈迦に説法でしょうが、そのことについて幾つか質問をしたいというふうに思います。

現在東京から、地方に移住を希望している人口が増えてきていると。そういう中で神奈川県は全国的に見ると10番目に希望があると。神奈川県広いですけれども、横浜も神奈川県であれば、この山北も神奈川県であると。ただ、そういう中で近い、1時間ちょっとというところで、非常に条件的にはよいということで様々工夫をされておりますが、なぜ、この質問を考えたの

かというのは、実は知り合いが山北山にミカン畑を持っていたと。昔はずらっとミカンでしたけど、今は本当にぽつぽつしかありません。その中で、実はもう年をとってきて、続けるのは難しいといって売ろうと思っても、買手がない。どうしようかということで、私がない知恵を絞って、じゃあ、これはちょっと町に相談してみようかということで御相談をいたしました。

やはり町もある程度のものがないと引き取るというか、そういうことはなかなか難しいと。県にもそういう制度あるけど、なかなかこれも厳しいという中で、そうすると耕作することができなくなる、売れない、そして、もう今2人だけの家族というふうなことで、そうなるとどうするのか。子どもたちも引継ぎをしない。そうすると、あとはもうそのままにってしまう、山が荒れてしまう、これは困るということで、ちょっとこれは考えなくちゃいけないなというふうなことで思いました。

今のところ、残念ながらいい方法はありませんが、ただ、あの山北山ですね、あの斜面、日当たりはいい、そして、かつてはミカンがずらっとつくられていた。その中で、やはり今後、移住、回答にもありましたが、農業をやりたいというふうな希望も来ていると、ただ、それにはやっぱり一定の面積等が必要であると。

となると、もう聞くところによると何軒かその土地を処分したいというふうな家があると、そういうものをそういう人たちのものをまとめて、そこで例えばミカン栽培、つくるだけではなくて、いろいろ用途はあると思います。ミカン狩りもそう、それからオーナー制度等がある、そういうようなことで移住してきてもらえれば、人口が増えるし、微々たるものですが、それから収入も得て、さらに広がるかもしれない。

これは、素人は誰でも考えるところですが、そういったところで、今後の山が荒れないということについても、もう10年先等を考えていく必要があるのではないかとということで、こういう相談が増えると思いますが、町としてはどのようにお考えになるのか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、やはり高齢化が進んで、耕作放棄地とか、あるいはそういういたので農地を手放したい、あるいは、また貸したいとかいろいろなも

のがあります。

今現在、やはり私有地ですから、その私有地を仮に売却するとなると、なかなか農業者でないと買えないというようなことがありますから、なかなかこの売却について難しい。それから、また賃貸にしても、相手がよく分からない人だと、例えば移住してきた人だと面識とか一切ありませんので、不安になるというふうなことで、非常に紹介とか何かでは難しいというふうになっております。

町としては、基本的にこれから考えていかなければいけないのは、農地を持てないというような制限の中で、どのようにして農地を利用できるかというようなことを、施策をつくっていかなければいけないというふうに思っておりますんで、今現在そういったようなことを研究して、何とか行政でも、農地を有効活用できるようなそんなような方法を考えていきたいというふうに思っております。

議長 清水明議員。

8 番 清水 回答のように、非常に難しいと。つい町の人間としては、役場が何とかしてくれるだろうという甘い考えになってしまうところがあると。行政のほうで私たち町民よりも縛りが多くなっている。そういうところは、承知をしながら、なおかつ本当に先ほど言いましたが、10年後、20年後、放棄地になって山が荒れてしまう、何もしなければ、当然そうなると思います。

そういう点では、ぜひ優秀な課長さんたちも多いので、知恵を絞って、何とか安心して老後、最後の人生が送れるように、ぜひ知恵を絞っていただきたいと思います。

その点で重ねてなんですが、人を呼び込むという中で、正直、私はちょっと今回については、呼ぶということについては、その農業のことについてのことしかあまり考えておりませんので、その中で家庭菜園や農業、兼業で農業やりたいというふうな小規模の農地についての問合せが増えてきているということです、この辺については今後具体的にどのようなことが進められていくんでしょうか。

議長 農林課長。

農 林 課 長 まず、一般の方が今法律上、農地を持つ場合には、これもどうかという御

意見だと思うんですけども、最低1,500平米という下限面積がございますので、今まで農業やられてない方が、初めに、もし農業をやるとしたら、1,500平米借りる、または売ってもらうとか、また、ある程度利用権を設定するという条件がございます、法律上、農業をやるということになりますとそうなっております。

ただし、そういうお話ではなくて、例えば100平米ぐらいいやりたいというお話というのは、やはり最近、移住希望者の皆さんの間では多くなっているのは事実なので、先ほどからお話出てますけども、町でも貸農園というのをやっております、3か所66区画ございます。残念ながら、残念ながらではないんですけども、今、全部埋まっております、たまにやめる方がいられると、もうすぐに問合せで入っているという状況なんですけども。農林課といたしましては、その段階でもし貸農園空いている状況であれば、すぐに御案内をして、現地等でお話をするというような対応をとらせていただいて、本格的に農業をやりたいというような場合には、まずは地域の農業委員さんに御紹介させていただいて、どういう場所でどういうことをやりたいのかというような御希望をお聞きして、マッチングできるような場合に対しては、地権者等の地主さんに紹介をするというような手順で、今のところ行っております。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 66区画が全て埋まってるということで、素人考えでは、これをもうちょっと希望があるならば増やせないのかなというふうに考えるんですが、そのところはどうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 そのような場合にでも、ただ貸農園というのは、やはり農業の本筋ではなくて、御自身で農業ができなくなったところを集めて、作ったり、ある程度、あまり条件が最高にいいところではないような場所とかという形で、今のところ、開設してるような状況でございます。ただし、議員さんおっしゃるように、ずっと埋まっている状況がここ数年続いておりますので、いい場所があったり、いい条件があればそれを増やすということは検討すべきことだと考えております。

議	長	清水明議員。
8 番 清	水	素人は言うだけ言うことでありますので、でも、これも一つの町民の声だということで、ぜひ今ももしできれば増やしてもいいかなというふうなお答えだと思いますが、ぜひ御検討をお願いをしたいなというふうに思います。 あまりお願いしちゃいけないんですよ。 人口は減少してます。もう当たり前のことです。そういう中で、日本の人口は縮小している、だから当然ながら、どこでも人口が減るのは当たり前のことであると。ですから、私はそれはもうあまり悲観的には考えておりません。ただ、町を元気にするためにはどうしたらいいのかということについては、例えば農業等もお助け隊みたいなことも山高との話の中では出ていました。でもなかなか人が集まらない、そういうところもあります。ましてや高齢化が進んでいます。 そういう中で福岡県みやま市は、みやま市への移住でということで、最大100万円を市が出す。これはすごいと言うべきか、そこまでしないと来ないのか。ただ、こういうふうなことで、どこでも何とか人に来てもらおう、やっぱりそういう中で農業について中核になってるということ、お金を出せばいいやということではありませんが、様々な取組をしているということで、そういう点では、私は、山北はいろいろやってるんだけど、ちょっとやはり発信力に弱いんじゃないのか、私がもうちょっとこのパソコン等うまく使えば手助けになると思いますが、本当に子育てについても非常に頑張ってくれていると。ただ、やはりちょっと、発信不足で正当な評価を受けてないんじゃないのかと、私は町長、そう思うのですが、最後にそのことについて、お気持ちを聞かせていただきたい。
議	長	町長。
町	長	いろいろなところで定住対策、人口減を何とかしたいということで、様々な施策を各自治体でやっております。しかし、山北町については非常に駅前のPFIの事業もそうですけども、全国に先駆けて中堅所得者をやりました。そして、その情報交換という形で自治体連携というようなものもつくって年に数回、五、六回ですか、ちょっとコロナになって、今できてないんですけど、かつては1年に5回か6回ぐらいの事例発表を行っております。

ですから、ほとんど事例はそのところで上がってきた事例に近いです。

例えば、うちのほうと相互応援協定を結んだ境町などは、移住してきて何年ですか、20年だか住むと、無料でその建物と土地を差し上げるというような政策を打ってます。この問題は、先ほど言ったような金額が100万円とか、例えば土地と建物がついてると、どんなに安くても数百万円というようなことだと思いますけど。ただであげること自体は全然問題ない、行政としては問題ないですけど、頂いた方は贈与税がかかるんですよ。ですから、ゼロと言いながら、実際には税金を払わないと、自分のものにならないというような。そうすると、その施策をやっているのは鳥取県とか島根県、あるいは、境町はどうか分かりませんが、土地の値段が我々に比べると数段低いわけですよ。

ですから、そういうようなところでは、そういうことももしかして可能だということできますけど、山北町のようなこういうような状況の中で、例えば金額をぼんと上げるとか、あるいは何年住んだらやれるとか、差し上げるとか、そういったことはなかなか現実的には難しいというふうになってます。

しかし、様々な事例は本当に数多くあって、我々も参考にすることは、たくさんあります。例えばお年寄りと新しい保育園・幼稚園を合体させてやってたり、九州の鹿児島県では病院と学童を一緒にしたり、いろんな取組をやってます。その自治体に合ったようなことを、これからも我々としては、事例を参考にしながら進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 以上で終わります。